

《特別寄稿》

バングラデシュでのボランティア活動について

MOHAMMAD A. MOMIN



●抄 録●

私は数年前から、日本のICDフェローである佐藤吉則先生、橋本光二先生、秋山逸馬先生そして元フェローであった作間敏信先生とどのようにバングラデシュの歯科教育および歯科医師を改善していくかについて相談してきました。バングラデシュでは歯科大学を卒業してから最新の歯科医療を学ぶ為、卒業研修や生涯研修を受講する機会は殆どないので

長い時間をかけて議論した後、2013年に私はバングラデシュでDental Scholars of Bangladesh Society (DSBS) という組織を立ち上げ、組織的にセミナーや実習を行って歯科医師を教育することを考えました。バングラデシュの歯科医師は、これらの研修を受講する事により、質の高い歯科医学知識や、歯科医療技術を習得し、国民により良い歯科医療を提供する事が出来ます。この目的を達成するために、2013年からDSBSとICD日本本部会の有志が協力して毎年研修会を開いています。それには500人を超えるバングラデシュの歯科医師が出席し、日本、およびバングラデシュの歯科医師達が様々なテーマについてトピックスを講演しています。さらに、若い歯科医師はポスタープレゼンテーションによって彼らのアイデアを提示し意見交換をしています。これは政府によるものではなく、健康機関や社会事業など自発的なものです。

ここで2016年3月18日にダッカ市で開催した第3回国際セミナーについて報告します。当日はバングラデシュ国内から7名、日本から私 (Momin) を含め佐藤、作間、橋本、秋山の5名が講演を行い、さらに日本から参加の4名は別にハンズオンを行いました。私は「歯科用コーンビームCTによる埋伏智歯の読像」、佐藤フェローは専門の補綴学に関し、「支台歯形成と連合印象」、作間元フェローは「歯の移植」、橋本フェローは「パノラマX線撮影法の原理と読像」、秋山フェローは「Ni-Ti Fileによる根管形成」というテーマで英語の講演をし、その後日本からの4名はハンズオンを行い、私はベンガル語で解説しました。とくにハンズオンに参加したバングラデシュの歯科医師は非常に興味を示し、熱心に実習を行っていました。終了後各人にcertificateを贈りました。

キーワード：バングラデシュ、ボランティア活動、DSBS (バングラデシュ歯科学会)

I. バングラデシュという国

バングラデシュ人民共和国は、ベンガル語を公用語とし、面積140万7000km²で人口約1億6000万人（世界7位）、ベンガル湾に注ぐ川のデルタに多くの人々が住む世界で最も人口密度が高い国の1つです。1971年12月16日にパキスタンからの独立が承認された新しい国で、北と東西はインド、南東部はミャンマーと国境を接しています。

バングラデシュは近年人口の増加を抑制し、健康状態と教育を改善しました。人々は長い間、貧乏、飢え、病気、および自然災害、社会的排他性、文盲、栄養不良、暴力、汚染などと戦って来ました。

バングラデシュの歯科医師数は約6,800人で首都ダッカに約1,000人と集中しています。今、バングラデシュでは国民の健康維持の為に、経験豊かな歯科医師が必要なのです。

II. 歯科医師の研修組織の設立

私は数年前から、日本のICDフェローである佐藤吉則マスター、橋本光二フェロー、秋山逸馬フェローそして元フェローであった作間敏信先生とどのようにバングラデシュの歯科教育および歯科医師を改善していくかについて相談してきました。バングラデシュでは歯科大学を卒業してから最新の歯科医療を学ぶ為、卒業後研修や生涯研修を受講する機会は殆どないのです。

長い時間をかけて議論した後、私がリーダーとなって私達は2013年にバングラデシュでDental Scholars of Bangladesh Society (DSBS) という組織を立ち上げ、組織的にセミナーや実習を行って歯科医師を教育することを考えました。バングラデシュの歯科医師は、これらの研修を受講する事により、質の高い歯科医学知識や、歯科医療技術を習得し、国民により良い歯科医療を提供する事が出来るようになります。この目的を達成するために、2013年からDSBSとICD日本部会の有志が協力して毎年研修会を開いてきました。この研修会には、毎回500人を超えるバングラデシュの歯科医師が出席し、日本、およびバングラデシュの歯科医師達が様々なテーマについてトピックスを講演しています。さらに、バングラデシュの若い歯科医師はポスタープレゼンテーションによって彼らのアイデアを提示し意見交換をしています。この組織は政府によるものではなく、健康に関与する機関であり、社会事業および自発的な組織です。

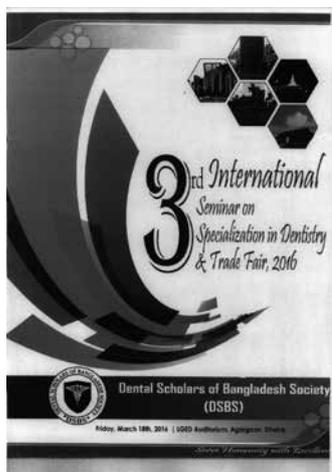


図1 セミナーのプログラム
fig. 1 Program of the Seminar

III. DSBSの活動

DSBSは、最新の歯科医学、医療に関する知識を修得し、それらを一般歯科医師に広めて、現状の歯科教育・医療を改善して、バングラデシュで歯科医学・歯科医療の向上を図るための歯科医師の組織です。

1) DSBSの主な目的：

- * 歯科医師会と友好的な関係を築き、国際的なフォーラム等を開催し、歯科医師の技術の向上を図る事により国民の歯科医療に貢献し、歯科医師の進歩への資源を提供する
- * 歯科大学における口腔保健分野の教育と研究の発展に寄与し、人道主義的なプロジェクトを促進し、サポートする などです

この目的の為に、これまでDSBSは多くの行事と活動を実施しました。

それは国際セミナーの開催と歯科材料、用品の展示会、歯科における様々な主題のハンズオンコース、また無料の歯の検査、幼稚園や小学校の子供達に対するブラッシング指導、中学校と高校の貧しいが優れた学生に対する奨学金を含む慈善活動プログラム、また街をきれいにするプロジェクト等です。

IV. 第3回国際セミナー

ここで2016年3月18日にダッカ市で開催した第3回国際セミナー（図1）について報告します。当日はバングラデシュ歯科医師会長（図2）と事務局長（図3）の挨拶に続き、バングラデシュ国内から7名、ICD



図2 バングラデシュ歯科医師会長の祝辞
fig. 2 Greeting by the President of Bangladesh Dental Society



図3 同事務局長の祝辞

fig. 3 Greeting of the Secretary General of Bangladesh Dental Society



図4 セミナー講演者（ホテルの前で）

fig. 4 Lecturers of ICD Japan section



図5 講演するMominフェロー

fig. 5 Lecture by Dr.Momin



図6 講演する橋本フェロー

fig. 6 Lecture by Dr.Hashimoto



図7 講演する作間元フェロー

fig. 7 Lecture by Dr.Sakuma



図8 ハンズオンコースで説明する佐藤マスター

fig. 8 Dr.Satoh at hands-on course

日本部会から私（Momin）を含め佐藤、作間、橋本、秋山の5名が講演を行い（図4）、さらに日本から参加の4名は別にハンズオンを行いました。私Mominは「歯科用コーンビームCTによる埋伏智歯の読像」（図5）、佐藤マスターは専門の補綴学に関し「支台歯形成と連合印象」、橋本フェローは「パノラマX線撮

影法の原理と読像」（図6）、作間フェロー（当時）は「歯の移植」（図7）、秋山フェローは「Ni-TiFileによる根管形成」というテーマで英語の講演をし、その後日本からの4名はハンズオンを行い、私はベンガル語で解説しました（図8、9）。とくにハンズオンに参加したバングラデシュの歯科医師は非常に興味を示し、熱



図9 ハンズオンコースで説明する秋山フェロー
fig. 9 Dr.Akiyama at hands-on course



図10 セミナー受講証授与式
fig. 10 Award ceremony of certificates

心に実習を行っていました。研修会終了後受講生に certificate を贈りました (図10)。

V. DSBSの将来に対する計画

- ・ 孤児や、貧しい人々に対し、歯科と医科の無料の検査
- ・ 国の様々な地区で医科と歯科の無料キャンプの定期的開催
- ・ 定期的に組織された採血と献血プログラムの作成

- ・ 口腔癌についての国民の知識向上
- ・ 国による学校歯科保健プログラムの実施
- ・ 水銀中毒について一般の人々の認識を増大させるための社会活動の実施
- ・ 口蓋裂と口唇裂の無料治療システムの作成
- ・ 新しい知識、技術、器具、その他を紹介し、最新の考え方を共有する為に、歯科の国際的なセミナーや展示会の開催を継続

(翻訳：橋本光二フェロー)

Volunteer activity in Bangladesh

MOHAMMAD A. MOMIN, D.D.S., Ph.D., F.I.C.D.

I have been consulted how to improve Bangladesh's under and post-graduate education for dentists with ICD Japanese fellows Drs. Yoshinori Satoh, Koji Hashimoto, Itsuma Akiyama and Toshinobu Sakuma from several years before.

There is little opportunity to study and training behind graduation and attend continuing education, lifetime study and training to learn the latest dental treatment and care after graduating from the dental school in Bangladesh.

In 2013 year, after long time discussion with them, I have decided to start the organization which is called Dental Scholars of Bangladesh Society (DSBS) in Bangladesh, and doing dental seminar and practice systematically for re-educating dentists.

The dentists in Bangladesh acquires dental knowledge and dental medical technology with high quality by attending these study and training and can provide good dental medical care for the people.

The volunteer in DSBS and the ICD Japan section cooperates to achieve this purpose from 2013 and holds a training seminar every year.

Over 550 dentists in Bangladesh have been lecturing by experienced Japanese and Bangladesh lecturers on a wide range of themes in the topics.

Moreover, the young dentists shows their idea by the poster presentation and is doing exchange about their presentations.

This is not one by the government and is the voluntary one of the health agency and the social work and so on.

I would like to report about the 3rd international seminar which was hosted in Dhaka city on March 18th, 2016.

At this seminar, five of Drs. Satoh, Sakuma, Hashimoto, Akiyama including me (Momin) and seven Drs. from the Bangladeshi did lectures about their own specialities each and moreover four Japanese dentists did hands-on after their lectures.

The themes of their lectures are as follows. The interpretation-of-radiogram of the impacted-third-molar by the corn beam CT by Dr.Momin, the preparation-of-abutment and the combined-impression by Dr. Satoh, the transplant of the tooth by Dr. Sakuma, panoramic radiography- principle and interpretation of image by Dr. Hashimoto, the root canal preparation by Ni-Ti File by Dr. Akiyama with English language. After that, four lecturers from Japan did hands-on about their each theme and I explained by Bengal language to participants of hands-on.

The dentists who attended the hands-on showed interest and were practicing enthusiastically.

The certificates of attendance were presented to each dentist after the ending.